



民 生 の 安 定

中 島 照

(73才)

中島氏は、北秋田郡鷹巣町脇神に居住している。昭和12年沢口婦人会長に就任以来、農村特有の封建性、迷信、因襲の打破、冠婚葬祭の簡素化等農村の生活改善を提唱し、これが実現のため地区民と先進地を視察、自から実践して効果をあげた。村議となつては未組織の婦人の組織化、あるいは公明

選挙運動に挺身するなどして政治意識の昂揚をはかり、地区民の体位向上には学校給食、検便、血圧測定等を全県にさきがけて実施して健康管理に努力し、なお地裁の調停、司法の各委員、日赤奉仕団地区委員長、郡社福協理事等の要職に現任し民生の安定につくしている。



漆器蒔絵技法保存

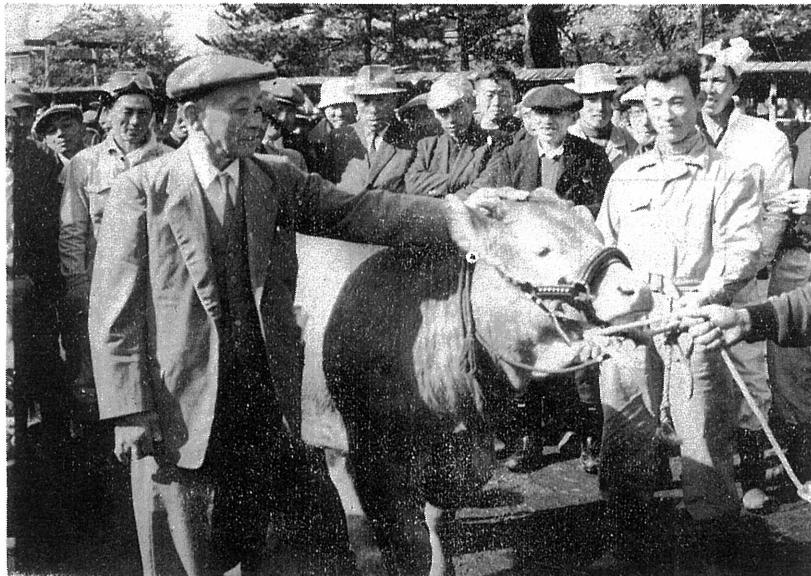
沓沢利兵衛

(73才)

沓沢氏は、雄勝郡稻庭川連町大館にうまれ、若くして家業の蒔絵を継承し、大正3年には県から派遣されて東京美術学校の聴講生となつて蒔絵と工芸図案を修めて郷里に帰り、昭和2年には川連漆器

信用利用組合を設立し、秋田県工芸指導所の川連誘致をはかつてこれを実現し、さらに川連漆器原料購買組合長に就任し、積極的に川連漆器の产业化

あるいは蒔絵、工芸図案の技法の保存伝授、後進の指導につとめ川連漆器をして今日あらしめた功労者である。



農家経営の多角化

成田 重蔵

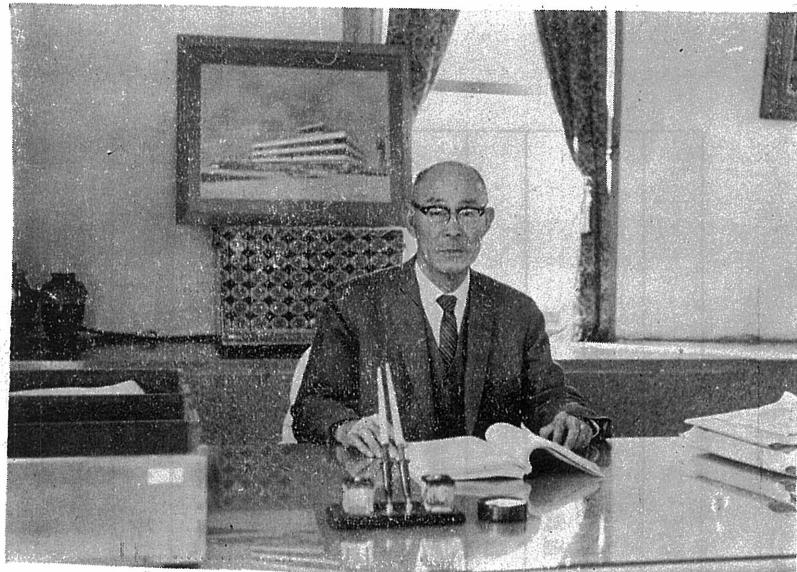
(72才)

成田氏は、山本郡二ヶ井町字山根にうまれ、現在町議会議長として自治行政の発展に尽くしている外、早くから水田単作農業の経営改善に着目し、

「和牛増殖」による農業経営の合理化を自から実践して効をあげ、これを他に及ぼし、特に32年以來先進地熊本県より毎年優良種畜の導入をはかり、

本県をして褐色和牛の生産地たらしめて名声をあげ、また市場における仔畜の取引を唱導して公正取引の慣行を確立するなど畜産振興につとめ、なお

また洪水による耕地災害防止のために少なからざる私費を投じて隧道を構築する等、農業の振興につくしている。



地方自治の振興

菊 池 時 之 助

(72才)

菊池氏は、雄勝郡羽後町西馬音内にうまれ、昭和4年町議となり連続3期間、町政の基盤確立につとめ、同14年9月県議会議員に当選、以来在職3

期におよびその間25年には県議会議長に就任し、積極的な議会活動とその運営につとめ、県民生活の安定と向上をはかつた。

また、27年郷里の町長に選ばれ、30年には周辺7ヶ町村の大合併を推進して初代の羽後町長となり、総合病院の開設、県立高校の誘致など行政の実

をあげ、現在町村会長、県町村会長、秋田県市町村職員恩給組合長等を重任して地方自治の発展につくしている。なお、氏は地方自治功労者として、

11月8日藍綬褒章を授与される。



農協事業の伸長

大沢 祐蔵

(67才)

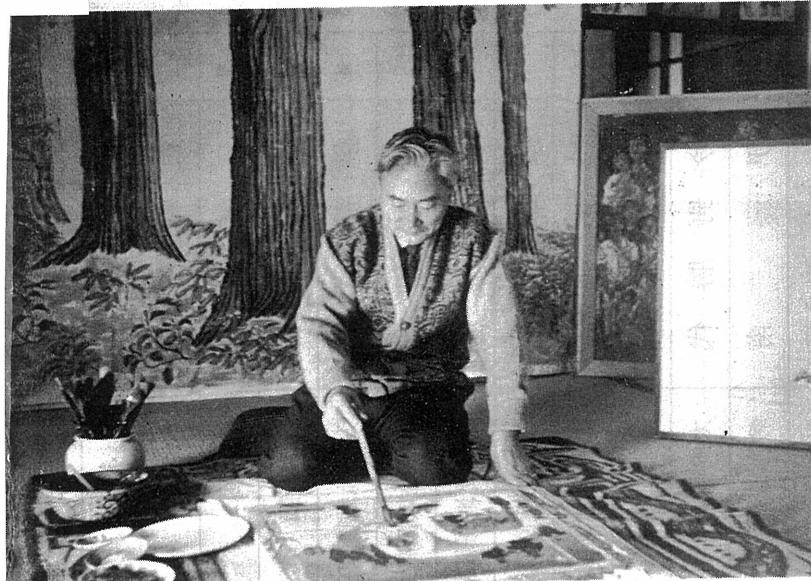
大沢氏は、北秋田郡上小阿仁村仏社に生まれた。昭和2年村の産業組合理事に就任以来今日まで村議、村長などを歴任しながらも農協関係の要職を
かね組合の指導者として、あるいは農村経営者として、特に山間僻地の農業発展、畜産事業の推進、山林利用に意を用い、農家経済の向上につとめ
た。

現在、秋田県信用農業協同組合連合会長であるが、特に32年度から農協刷新拡充3カ年計画運動を展開し、系統信用事業の強化と経営合理化をはかり
り、農家経済の自立と資金自賄の確立に努力し、この間率先行脚して指導啓蒙する等、ために組合金融事情の向上はみるべきものがある。なお、氏は
産業功労者として11月15日藍綬褒章を授与される。

美術の宣揚

館岡 豊治

(65才)



館岡氏は、南秋田郡五城目町にうまれ、現在八郎潟町に居住している。若くして日本美術院同人安田鞆彦に師事し、昭和8年院展に入選して以来入

選すること20数回、特に11年作「雨後」は横山大観賞を獲得して注目を浴び、同院研究会員、同院友となり、29年以来は、日本美術協会招待出品者と

して現在なお創作を続けている。氏のえがくもの多くは郷土秋田の風物であり、農山村の姿である。

現在「秋田新樹社」を主宰して創作のかたわら後進の指導につとめ、またローカル新聞「湖畔時報」を発行して地域民に芸術保存の必要を説き、絵

画を通して郷土の風俗紹介に寄与している。



結核予防の推進

黒 丸 五 郎

(64才)

黒丸氏は、秋田市新屋町にうまれ、千葉医専を卒業後、同校細菌学教室、東大伝研、中野結核療養所に勤務、その間、岡治道博士の指導で結核の臨床と病理研究にうちこみ、昭和12年秋田療養院（現国立道川療養所）の初代院長に就任し現在に至っている。結核病学会の評議員としてB・C・Gの研究にあたり、特に12年全国にさきがけ中通小児童全員のB・C・G接種と集検を自ら実施したことは学会での貴重な資料となり、結核予防上大いに評価されている。また著書「腸結核症の病理」を刊行するなど、本県結核予防の草創の人として活躍している。